

学校教育自己診断の結果と考察

1：児 童 生 徒

NO	設 問	令和6年度の 肯定的回答率	令和5年度 との比較	令和5年度	令和4年度
1	学校は楽しい。	88.9	↑ 9.4	79.5	89.1
2	授業は、教材（プリントや資料など）や教え方など工夫され、わかりやすく楽しい。	85.5	↑ 6.4	79.1	94.5
3	先生はわたしたちのことを大切にしている。	94.3	↑ 3.4	90.9	92.7
4	自分の将来や進路について、考える機会がある。	63.5	↑ 0.7	62.8	64.7
5	先生は、いじめについてわたしが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	89.4	↑ 8.4	81.0	86.7
6	気軽に相談できる先生がいる。	83.3	↑ 10.0	73.3	84.9
7	自分やほかの人の大切さや社会のルールについて学習する機会がある。	90.6	↑ 4.6	86.0	90.4
8	先生はわたしたちの心や身体のことをわかってきている。	88.5	↑ 4.4	84.1	92.5
9	先生は、周りの人とのつながりに気を配ってくれている。	96.2	↑ 14.4	81.8	88.0
10	運動会やお楽しみ会などの行事は、楽しく参加できるよう工夫されている。 (R5までは、本校・精神・阪大のみ回答)	89.8	↑ 11.2	78.6	82.6
11	学校は児童生徒1人1台端末を使って問題に答えたり、調べたりしている。	62.7	↓ 9.8	72.5	

【考察】

昨年度の肯定的回答率と比較し、全体的に改善がみられた。各病棟での感染症対策における教室利用や活動制限等の緩和等もあり、昨年度よりも対面での授業や各行事に参加する機会が増えたことも影響していると考ええる。

キャリア教育に関連する項目4については、令和3年度から60%代で推移しており、昨年度の学校運営協議会でいただいた「児童生徒の将来の不安への配慮があったための数値の結果であったのではないか。児童生徒の中には、「退院できないかもしれない」や「大人になれないかもしれない」等の不安を抱えているため、各部署での指導においては意図的に将来的な話題に配慮した授業を展開しているのではないか。」等、指導・支援における配慮の結果であった考える。また、「肯定的評価が低いことは必ずしも悪いことではない。肯定的評価を70%以上目ざしていくことについては、もう少し慎重に検討するべきではないか。」を踏まえ、肯定回答率が示す数値的意味・背景、対応等について、引き続き検討を図っていきたい。

2：保 護 者

NO	設 問	令和6年度の 肯定的回答率	令和5年度 との比較	令和5年度	令和4年度
1	子どもは、学校を楽しみにしている。	86.1	↑ 7.4	93.5	97.1
2	授業内容は、子どもに合うように工夫されている。	100	0	100	100
3	学校の教育方針に共感できる。	97.2	↓ 2.8	100	100
4	学校は、子どもの将来や進路などについて適切な指導を行っている。	82.1	↓ 10.8	92.9	86.2
5	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	92.3	↓ 7.8	100	95.5
6	学校は、人を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。	96.9	↓ 3.1	100	100
7	学校は、ホームページ等で教育情報の提供について努力している。	96.4	↓ 3.6	100	100
8	教育相談や懇談のときなど、子どもの学習目標の設定に親も関わる機会が設けられている。	86.7	↓ 13.3	100	96.9
9	懇談や学校行事等に参加したことがある。	56.7	↓ 26.6	83.3	52.2
10	行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。 (R5 まで、阪大のみ)	96.4	↓ 3.6	100	100
11	学校は、子どもの体や心の状態を理解している。	97.2	↑ 0.4	96.8	100
12	学校は、前籍校や病院と連携して指導にあたっている。	94.4	↓ 2.2	96.6	100
13	学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を尊重している。	97.1	↓ 2.9	100	100
14	学校は、地震や台風警報等への対応を保護者に伝えている。	92.0	↑ 5.6	86.4	88.0
15	学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に応じてくれる。	90.6	↓ 6.0	96.6	100
16	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	75.0	↓ 20.7	95.7	

※精神分教室では、保護者に配布していない。

【考察】

項目9については、否定的回答及び無回答が全回答数の5割以上を占めていることから、児童生徒の入院時期・期間内の懇談や学校行事の有無が数値結果として表れたと考える。同様に、項目8や項目16についても、否定的回答率と無回答率が高く、入院期間内での児童生徒の学習の様子を知る機会等の少なさからの評価または、評価の難しさが影響しているのではないだろうか。

保護者アンケート内の「入院後は自分でお友達と院内学級に行けるようになったのは先生方のご理解とご協力があったからだと思います。本人にとって安心して心許せる環境を作ってください。本当に感謝しております。」や「子どもたちの体調・治療を最優先とし、そこに前向きに向き合えるようなことばかけや対応をしていただけた。」「一変した生活の中で、楽しみながら登校できる、そんな居場所があること、とても感謝しています。」など、子どもたちの学習の様子を見る機会を増やしていきたい。

3：病院関係者

NO	設 問	令和6年度の 肯定的回答率	令和5年度 との比較	令和5年度	令和4年度
1	子どもは、学校（病棟）で学習することを楽しみにしている。	88.2	↑ 4.9	83.3	86.0
2	学校は、子どもの体や心の状態を理解し、適切な指導を行っている。	91.0	↑ 0.2	90.8	92.6
3	学校は、子どもの治療や入院生活に良い影響がある。	98.6	↑ 0.6	98.0	97.9
4	学校では、子どもの個人情報を守られている。	95.8	↑ 0.6	95.2	98.3
5	学校は、病棟と連携して教育活動を行っている。	89.0	↓ 1.8	90.8	86.8
6	病院と学校の定期連絡会は役に立っている。	80.0	↓ 5.1	85.1	81.7
7	学校は、病弱教育の専門性向上のために努力している。	92.8	↑ 0.7	92.1	89.3
8	問題が起こった際、学校は迅速に対応することができている。	94.9	↑ 3.2	91.7	92.8
9	学校はタブレット端末を効果的に活用している。	91.7	↑ 3.6	88.1	
10	学校の行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。	94.4	↑ 0.3	94.7	98.4

【考察】

病弱の支援学校において医療と教育の連携は必須であり、「いつも子どもたちのことを相談させていただいたり、授業の様子などを教えていただいたり、ありがとうございます。」や「子どもたちのカンファレンスへの参加など、いつも丁寧にご対応くださりありがとうございます。」「いつも子どもたちは学校を楽しみにしている様子が見られます。」などの肯定的なご意見をいただけている。一方で、「学校と病棟での様子が違う子どももいるので、もっと情報共有ができればと思います。」や「授業時間の延長を希望する児童の授業時間を制限する理由が理解できない。」「教員の対応により気を病んでしまう児童生徒もいるので、慎重な対応をお願いしたい。」などのご意見もいただいている。今後さらに病院関係者との密な連絡会となるよう、日常的な病棟関係者との情報交換の機会も含め、教育の立場からの積極的な関係づくりに努めていきたい。

4：教 職 員

N0	設 問	令和6年度の 肯定的回答率	令和5年度 との比較	令和5年度	令和4年度
1	職員会議や各分掌等、学校組織は有効的に機能している。	80.8	↑ 6.3	74.5	82.5
2	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	84.9	↓ 6.9	91.8	88.7
3	学校運営に、教職員の意見が反映されている。	65.4	↑ 6.3	59.1	63.3
4	年度末反省等、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	67.3	↑ 2.9	64.4	68.3
5	公開授業や研究授業等、授業力向上に向けた取り組みが推進されている。	79.2	↓ 6.2	85.4	66.7
6	児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている。	100.0	0	100	93.5
7	児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。	94.3	↑ 0.4	93.9	91.9
8	児童生徒の指導において、家庭との連携ができています。	84.3	↓ 0.8	85.1	85.5
9	児童生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	84.0	↓ 5.4	89.4	78.9
10	いじめ（疑いを含む）が起こった際体制が整っており、迅速に対応することができている。	90.0	↑ 2.8	87.2	94.0
11	相談体制が整備されており、児童生徒は気軽に教職員に相談等することができる。	85.7	↓ 24.3	100	87.5
12	児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。	98.1	↑ 18.6	79.5	98.3
13	児童生徒会の活動が自主的にできるように、支援を行っている。	78.7	↓ 6.4	85.1	79.2
14	教育活動に必要な情報を積極的に収集し、児童生徒・保護者や地域への周知に努めている。	82.0	↓ 5.5	87.5	81.5
15	体罰やセクハラ等の防止をはじめ、人権尊重に基づいた指導が行われている。	86.3	↓ 9.5	95.8	89.8
16	個別的教育支援計画、個別の指導計画について本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。	94.0	↓ 1.9	95.9	91.5
17	医療機関や前籍校との連携が活発に行われている。	86.8	↓ 4.9	91.7	98.3
18	個人情報保護の観点から児童生徒の個人情報に関する管理システムが整っている。	92.3	↑ 5.0	87.2	94.9
19	校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。	88.5	↓ 1.1	89.6	86.2
20	コンピュータ等の情報機器が、授業などで活用されている。	88.2	↑ 17.7	70.5	98.3
21	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	61.7	↓ 13.3	75.0	
22	教育活動における悩みについて、気軽に相談しあえる職場の人間関係ができています。	74.5	↓ 0.5	75.0	81.4
23	刀根山支援学校では、服務規律への自覚が高い。	72.5	↓ 15.0	87.5	73.7
24	施設設備について定期的に点検し、自己・災害等時に迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。	90.6	↑ 29.9	61.7	71.9
25	刀根山支援学校には、他の部・分教室と積極的に協力しようという雰囲気がある。	53.1	↓ 23.6	76.7	76.1
26	地域支援は十分に行われている。	85.1	↓ 4.5	89.6	63.0
27	防災教育・安全指導は十分行われている。	88.0	↑ 10.0	78.0	87.0

【考察】

同部署・分教室内の教職員とは同じ目的に向かっての話し合いや意見交換等はできているが、学校単位や他部署の教職員との協力の難しさを抱いている教職員が多いことがわかる。今年度は、同僚性を育むための研修や校内研修、運営委員会など、昨年度よりも他部署・分教室の教職員と接する機会を設けた。同僚性を育むための研修に参加された教職員の評価は95%と高かったが、全教職員の積極的に協力しようとする雰

困気が作られるまでにはもう少し時間と工夫が必要であり、次年度以降も継続的に取り組んでいきたい。

項目 20 と項目 21 については、活用はされているが「効果的に」といった判断基準の難しさを感じている教職員がいたのではないだろうか。研修支援部を通じて、「効果的に」活用している実践事例の紹介等、教職員のニーズに応じた研修機会の設定も検討していきたい。

今後も、教職員はもちろんのこと、児童生徒・保護者・病棟関係者が「楽しい」と感じることのできる学校づくりを、学校長を中心とした具体的な改善案及び目標、年間計画の設定等、全教職員が協力して取り組むことで学校経営計画の目標の達成を図っていきたいと考える。